

第3回 健康講座

農業者が抱く放射線に対する不安を払拭するため、JAそうま及び除染情報プラザの協力を得て、果樹農家を対象として健康講座を実施しました。

- 1 開催日時 平成27年2月6日（金）
- 2 開催場所 JAそうま中村営農センター
- 3 参加者 49名
- 4 講師 除染情報プラザ アドバイザー 庭野定次 氏
- 5 講演テーマ

放射線・放射能とのつき合い方

6 講演の内容

- ・空間線量率は物理的減衰等により、事故当時の5～6割に減衰している。
- ・ガンマカメラで放射線汚染状況を確認すると、場所で濃度が異なる。放射性セシウムは雨水がたまりやすい場所に溜まりやすい傾向がある。
- ・放射性物質は自然界にも存在しており、2.4mSv/年（世界平均）の放射線を浴びている。
- ・放射性セシウムは土壤に吸着されている。水道水や井戸水は問題ない、どうしても心配であれば測定してみることである。
- ・土壤では一部高い濃度の場所が存在しており、土壤がついたら洗い流すことが対策となる。
- ・農作業においては、高線量の場所ではないか確認し、作業後はしっかり洗い落とし、衣類も洗う、ことが重要である。

※質問の時間には、農作物が土壤中の放射性物質を吸収するのに関する質問がありました。



ガンマカメラの画像を基に説明を行う講師